広報
さめがわ

1971
8月号
No.213
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



木村知事をかこむ県政懇談会

鮫川村民のナマの声を県政に反映させることを目標に、木村知事をかこむ県政懇談会が開かれました。

この日は、200名あまりの参会者から、それぞれ切実な問題について質問や希望意見が出され、知事から懇切な答がありました。午後1時から約2時間、石田村長の司会で終始なごやかな懇談が続けられ、予期以上の成果をあげることができました。

⊙毎月1日は交通事故ゼロの日です
⊙第3日曜日は『家庭の日』です
家族そろって話し合いましょう

今月の人口

人口	6,495	(−7)
男	3,276	(−9)
女	3,219	(+2)
世帯	1,201	(−1)

県畜産共進会で優等賞

第十四回福島県畜産共進会は、去る六月二十九日から七月一日まで三日間、福島市競馬場で開催されましたが、鮫川村から出陳した肉、乳用牛が上位に入賞しました

肉用牛第二類
優等賞　西山　坂本　由男
一等賞　西山　我妻　隆
乳用牛第一類
二等賞　西野　須藤　弘美



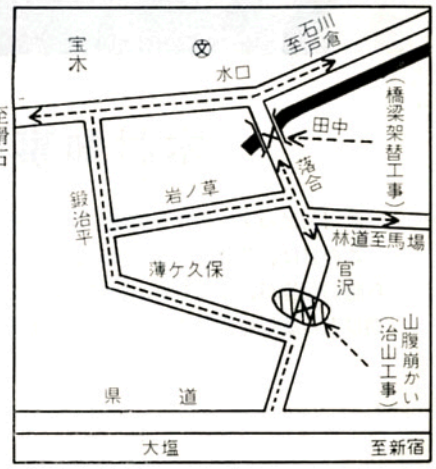
優等賞のまつひめ号

道路＞＜情報

西山田中橋の架替工事及び官沢地内山腹崩かいに伴う治山工事のため、官沢～田中間の村道が次により車両通行止になつています。

◉期間　自　昭和46年7月30日
　　至　昭和46年10月10日

但し都合により期間が延長される場合がある



木村知事をかこんで

村長　石田　卯子八

村政の歩み (4)

知事が県議会を尊重するのは制度上当然のことですが、知事はまた県民の直接選挙によつて挙げられる県政の執行機関でありますから、県民と直接接触の機会をもちそのナマの声をきくことが、また極めて重要であります。

移動県庁や、県政懇談会が開かれるのも、このような理由からであります。

このたびの県政懇談会は、県南地域で三町村が選ばれ、矢吹町、矢祭町、鮫川村ということになりました。

わが村では七月十六日の午後公民館を会場として開かれました。木村知事は、国会議員時代いわき市からの道路問題や地域開発のことで、幾度かお出になつており、誠実率直なお人柄で、村のかたがたには深い親近感をもたれております。

このたびは、午前中に矢祭町の懇談会、高地原橋の渡橋式に臨まれて、当地に来られました。

会場の公民館には、二百名からの村人が参会されましたが、どこの会場よりもまじめな態度、なごやかな雰囲気が感じられたかと思います。

質疑は先づ道路の問題から始まりました。質問者から二八九号線の国道昇格や、棚倉鎌田上三坂線の主要地方道昇格について感謝のことばが述べられ、早く村内の主要県道を全線舗装して、生活圏の中心に至る交通時間を短縮して貰いたいという要望が、数人から出されました。木村知事は道路知事と異名がある位ですから、どの質問に対しても現地をよく把握されての答弁があり、特に主要幹線県道は三年前後で全線舗装するという力強い答が出されました。

沼野沢地域からの村道、葉貫戸草からの村道を県道に昇格されたいとの要望に対しては、要件が整えば実施するとのことでした。

次いで社会福祉部門に入り、婦人側から生活改善センターの建設農民保養施設の設置について要望があり、これらの事業についても県が積極的に援助する旨の答がありました。

なお農村地域に工業を導入する施策については、内容のよい公害のない工業の導入を進めるということであり、辺地部落の道路橋梁、高令者医療費の問題についてもそれぞれ答弁がありました。

何といつてもわが村が県政に望むものの重点は、県道の整備であり、改良舗装の促進であることはこの日の懇談内容からみても強く印象づけられたことです。

この成果を発展させ、今後の努力によつて、実現を早めたいものであります。

人事

八月一日付

◉社会教育課長　金沢　次男
公民館長を兼ねて命ずる。

◉社会教育課主事　鈴木　俊之
公民館主事を兼ねて命ずる。

おめでた

七月

青生野	笹島　賢一	父	光儀
鍬木田	岡部恵美子	〃	義恵
青生野	山形　美好	〃	貞三
田ノ上	蛭田　弘子	〃	一
馬場	鈴木　孝男	〃	輝司
新宿	湯坐　諭	〃	清
小名沢	湯坐　恵	〃	孝友
新宿	小松　明美	〃	誠一

おくやみ

七月

巡ケ作	古舘　大吾	69才	誠二	世帯主
関口耕地	藤田　ハナ	65才	滋	
馬場	鈴木　グン	73才	重愛	
滝	近藤三之助	63才	弘	
関口	藤田　正行	61才	昌司	
沼野沢	水野　儀助	53才	モト	
道少田	江田ハツノ	57才	賢一	
関口	藤田　知義	29才	知威	
東前田	市村　一郎	45才	ミヨ	

八月

大塩	鈴木　シモ	84才	光恵



去る七月十六日午后一時から県と村の共同主催で、県政懇談会が鮫川村公民館で開かれました。

県出先機関の長、一般村民約二百名が参会し、土木、産業、教育社会福祉など各般にわたり、質疑や要望が出され、盛会のうちに予期以上の成果をあげて閉会されました。

定刻、石田村長が司会者となり木村知事を紹介し、たゞちに懇談に入りました。

質問　字遠ヶ竜　中川西好幸（49）　古殿町

滝ノ平から本村の遠ヶ竜に至る区間の未改良県道を早期に改良して大型車の通行ができるようにお願いする。



答弁　三株から田人の方も改修していないので、今後は両方から改修を進め、皆さんの要望にこたえたいと考えているので、いましばらくお待ち願いたい。

質問　字江竜田　芳賀　洋郎（53）

昨年国道に昇格した、渡瀬～青生野～田人間を早期に改良し、舗装して頂きたい。



答弁　この路線は、県でも力を入れて改良しているが、今度国道になつたので、着々改良工事を進めている。改良済のところは、なるべく早く舗装し、田人地内も早急に改良したい。国道になつたからといつてすぐに舗装にはならないが、この路線はだんだん立派な道路になると思う。

質問　字馬場　鈴木　重隆（28）　本村内

本村内の主要幹線県道は局部的には舗装されているが、全線の舗装ができていないので、地域住民はあらゆる面で不便を来たしている。新宿を中心に鎌田棚倉間、また新宿浅川間の県道を全線舗装にしていたゞきたい。これは何年頃までにできるか伺いたい。



答弁　県の方針として県道は全線舗装にしたいと思い、改良や舗装工事をしているがなかなか追いつかないのが現状である。

常磐～石川線も最初から全線舗装したのではなく、将来は全線舗装にする前提で、人家連担地域を重点に、ところどころ舗装にして行つたものである。

たゞいま要望のあつた路線は、鮫川村の交通文化の発展のため重要なので、確定的ではないがあと三ヶ年前後で全線舗装にしたい。

質問　字福原　蛭田　一（39）　米の生産調整に協力する意味で福原地内の圃場整備を計画したがこゝを市員の狭い、カーブの多い県道が通つている。道路敷は提供するので、圃場整備と併行して県道の改良工事を実施されるようにお願いする。



答弁　圃場整備をするときは、道路敷をとつて道路の整備を行うのが理想的である。

福原地内の県道も、圃場整備と併行して改良するようにしたい。

質問　字岫長　矢吹　啓松（50）　県道鎌田～棚倉線を主要地方道に昇格して頂いたことを感謝する。この機会に、大規模な改良工事を行つていたゞきたい。特に火打石、石神、見渡間の未改良区間を公共事業で早急に改良して頂きたい。



答弁　先程も、浅川、鎌田間を三ヶ年位で舗装にすると申し上げたが、この路線の改良も早く進めたいと考えている。

質問　字沼ノ沢　本郷　栄治（38）　沼ノ沢は村内でも一番不便なところで、中学生は浅川町に通学している状態である。



村道赤坂～石川線・竹貫～浅川線は、村のへん地対策事業で改良工事が行われ、今年度中に改良工事が完了するので、これを県道に認定して、バスがとおるようにお願いしたい。

答弁　村道から、県道に格上げするには、いろいろな条件がある。その条件が具備されているものが県道に認定されることになつている。この路線については、将来の問題として検討してゆきたい。

質問　字大竹　岡部　豊（41）　いわき市井出から本村赤坂東野に至る村道



木村知事あいさつ（要旨）



福島県は、全国で二番目に大きい県で海・山林及び地下資源に恵まれていながら、東北の後進県と目されている。今後は後進県の脱却を目指しこれらの資源を大いに活用するとともに、県民の声を県政に反映させ、豊かな、住みよい福島県にするため努力したい。皆さんのご協力をお願いする。

赤坂～勿来線を県道に認定していただきたい。

答弁　しばらくぶりで鮫川村に来たが山村で人口が少ないうえ道路の数が多いので、これを整備してゆくのは容易でないと思っている。

村道の県道昇格のことについては前にも申し上げたが、基準に合致するものは順次格上げしたい。

将来、県の代行工事として町村道が整備されるときがくると思われるので、そのときは重点的にとりあげたい。

質問　字馬場　鈴木　公義（56）

県単林道、県単治山事業の予算枠を拡大し希望の事業が大巾にできるよう、特に馬場林道に大巾の予算をつけられるようお願いしたい。



答弁　四方が山に囲まれている鮫川村としては当然の質問だと思う。

他県に比較し、福島県は特に県単の林道開発に力をれている。今後も巾を広げてやつてゆきたい。

質問　字鐘撞堂　鈴木　一実（50）

畜産の振興を図るため又農業所得を上げるためにも、阿武隈山系の開発を早急に実現して頂きたい。

答弁　現在、農林省の指定により、広域農業開発総合調査をやつているこの調査は相当長い期間を要するので、とりあえず今までに県単独で調査をしてきた。また各地域で検討している事業についても、逐次開発を進めている。



質問　字滝　須藤　昭子（41）

西野は、村の中心にある公民館から遠いので、立派な部落公民館がほしいと考えていた矢先、村から生活改善センターを建てる話しを聞いたので、是非西野部落の中心に建てていただきたいと思います。この事業に県の補助がありますか。あるとすれば何年度の事業になるか伺います。



答弁　生活改善センターは、山村振興法とへき地農山漁村振興対策事業によるものと二つの種類があるが過疎地域である鮫川村はこの基準に合うので、県では助成する考えである。村長を中心に相談してほしい。又いつ頃かと云うことについては今後村と協議したい。

（村長）生活改善センターは、山村振興計画で来年度に建てるよう計画したい。

質問　字檜久保　森　芳子（42）

農村の明るい生活環境をつくるためには、いこいの場が必要であります。それで未だ開発されない鉱泉などがあると思うので、村や県で開発し、住民の特に婦人や老人の休養施設を作つていただきたい。県に計画や援助の方法があるか伺います。



答弁　温泉開発については、県はいろいろ考えている。もしボーリングをやるとすれば県は補助金を出します。ボーリングをして温泉がでたときは、その時点でまた話し合うことにしたい。

質問　字戸倉　関根　信政（60）

農村の出稼防止対策や、農外収入のみちを求めるために、公害のない工場を誘致して頂きたい。



答弁　農村の共通した問題だが、専業農家が少なくなつてきている。県では一農村一工場をと考えている国でも法律を作つて、農村に工場を誘致するよう積極的に振興を図ることになつた。

工場誘致は、道路の問題や適地の問題がある。鮫川村も国道二八九号線が完成すれば状況が大きく変化してくるものと考えている。とにかく、公害のない、安定した農外収入を得られる工場誘致について努力したい。

質問　字越虫　星　フミ子（28）

越虫部落は、国道に出るまでの道路が狭くまた橋は土橋で老朽化しているので、県補助で道路改良と橋の架替をやつていただきたい。



答弁　林道かなにかでできるかどうか検討してみる。林道でできないときは村道でやるしかないと思うがとにかく村と協議する必要があると思う。

質問　字大平　関根　勝義（33）

老人の医療費給付を現在の八〇才から年令を引き下げてほしい。



答弁　県でも今年から八十才以上の老人の医療給付について援助することにしたが国では七十五才以上の老人医療給付について検討しているので、来年度あたりから年令が引き下げられるものと思う。

質問　字上　高坂　久男（41）

石川町を中心とした広域市町村圏の話があるが、鮫川村の場合白河地方でなく、石川地方の圏域に入つた方がよいのではないか。



答弁　石川町を中心とした三町二ヶ村の広域圏ができるのではなく、これらの町村が郡山地方広域市町村圏に新たに加入するということである。

質問　字青生野　岡部　実（45）

今から六～七年前、青生野で集団桑園と牧野を初めたとき、知事が桑園に立ち寄られ、我々をはげまして頂いた。おかげで桑園も軌

道に乗り若い者も出稼ぎに行かず、毎日みんなで協力し合いながら努力している。これも知事のおかげであり厚く御礼申し上げます。今後とも青生野地域発展のためお力添えをお願いします。

知事　今日、鮫川の実態を見、また皆さんの話を聞いて山村へき地の感を深くした。

このような山村で生活する皆さんの御苦労であることがわかり、特に道路の問題については身にしみて拝聴した。山村へき地である鮫川村発展のためにはどうしたらよいかと云うことを検討し、皆さん方の熱意に応えたいと思う。

最後に村長から知事並びに参会者に感謝のことばと、要望事項の実施を要請するあいさつがあり午後四時閉会。



児童生徒補導委員会発足

子供の健全育成をねがつて

このたび鮫川村連合PTAの特別機関として鮫川村児童生徒補導委員会が発足いたしました。

この委員会は村内児童生徒の健全育成をねがつて、地域社会と学校と父母が手をたずさえて、自分の家の子どもばかりでなく、村内の子ども達を小中学校高等学校の区別なく、みんなを対象として次のようなことをすることになります。

一、校外において補導を必要と認められる行ないにたいして、注意を与えたり、又は予防的に中止や解散を促がします。

二、危険箇所を発見したとき、注意をうけいれないとき、ぐ犯行為と思われることがあるときおよびいろいろな補導に関して学校又は関係機関と連絡をとり指導にあたる。

三、よい行ないを知つたときにその顕彰の資料を出す。

四、児童生徒の健康安全又は風紀上必要と認められる施設設備又は行事等にたいする意見をのべること。

以上のようなことをいたしますが、決して子どもを叱りつけたり監視したりするものではありません。あくまで子ども達を良い子ども、次の代を背負うのにふさわしい子どもとして育成していこうというのがねらいであります。

委員長　鈴木一実　副委員長　舟木国児　各大字毎に十名前後の委員があり、各方部に一、二名の幹事があります。

水泳プールの建設初まる

統合中学校の新しい施設として計画された水泳プールの建設について、国庫補助の内定があつたので、昭和四十六年度事業として工事が初まりました。

この施設は縦二十五m巾十五m（七コース）の標準型の水泳プールで、総工事費が千二百七十二万円で本体工事を矢吹町の高田工業KK（九二〇万円）、機械、給排水設備工事をいわき市の水交産業KK（三〇〇万円）が請負い、その他暗渠排水工事などがあり、七月十五日着工、九月三十日完成を目指し工事が急ピッチで進められています。



水泳プール建設の床堀り作業

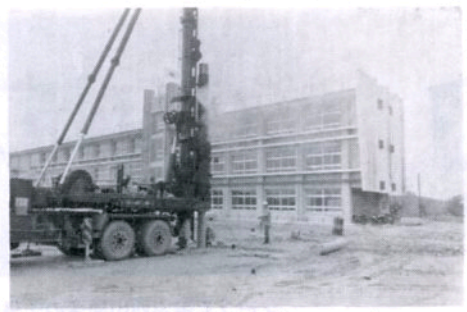
広大な体育館を建設

鮫川統合中学校舎の東側に

鮫川統合中学校の屋内運動場は本校舎の東側に建てられることになり、すでに基礎杭打工事（白河市東北ボールKK二四〇万円）も終り、本体工事が始まりました。

本体工事は、三千四百五十万円で矢吹町の高田工業KKが落札し議会の議決を得て本契約が結ばれました。

設計は鉄骨建てトタン葺で、面積も一、〇〇八㎡と旧中学校屋体より三八四㎡も大きい、近代的な体育館が今年十二月中に完成する予定となりました。



東側の校庭に基礎杭百本が打ち込まれました

―▲税コーナ▼―

○八月二十五日は国民健康保険税第三期分の納期です。忘れずおくれずに納めましょう。

◆国民健康保険税について◆

第一期分の賦課時期には、四十五年度村民税の所得額が確定しないため、地方税法の規定により、前年度の年税額に基いて算出した（暫定賦課）第一期、第二期分の通知を差し上げました。

八月には今年度分保険税の本算定が行なわれ、確定した税額から暫定賦課額を差引いた残りが第三期、第四期、第五期分として課税されることになります。按分率等については次のとおりです。

○按分率等

所得割	資産割	均等割	平等割
百分の1.53	百分の46.12	1.096円	2.878円

減税該当者（減税金額）	区分	均等割	平等割
	6割減税	658円	1.727円
	4割減税	439円	1.152円

◆県税だより◆

八月は個人事業税第一期分の納期です。納期内納税にご協力ください。

夏の交通事故防止

過労運転無謀運転をなくそう

夏は交通事故多発期＝過労運転や、むりな運転をなくし、交通事故をなくしましょう。

昨年県内でおきた交通事故は、13.103件で、死亡者337人、負傷者17.219人を出しています。しかも住みなれた、通いなれた市町村の地域内で、住民同士が起こした事故が60～70％にも達しています。

交通事故の防止は、まずお互に確め合い、譲り合い、注意し合う心が大切です。

昨年夏の事故件数

区分 / 状態	事故数	死者	傷者
追越し方法不適	156	17	132
最高速度の超過	132	13	226
過労・居眠運転	51	6	118
無免許運転	91	4	151
酒よい運転	86	3	131
徐行義務違反	191	3	258
合計	707	46	1.016

―昨年県内でおきた事故の85％は県民が第一原因者です。―



農協の職員が役場の窓口に出張して現金の出納を行うことになりました。

窓口で現金払い

八月一日から役場の出納事務の取扱いが、次のように改められたので御知らせします。

記

一、支払い事務はすべて送金依頼のあつたものを除いて、役場の出納窓口で現金支払いをいたします

二、納税その他年金保険料等の収納は、役場でも取扱うことになりました。

三、鮫川農協渡瀬支所でも収納事務を取扱うことにしました。

今まで取扱つた鮫川農協の支払い事務は役場の窓口で行い収納の取扱いは今までと変りなく行います。

この改正で、収納場所は三ケ所で行い、支払いはすべて現金取扱いとなり、村民の便益を計るものです。

なお役場窓口には代理金融機関の農協から専門の職員が派遣され出納を取扱つて居ります。

よろこばれる季節保育所

西山公民館に開設

葉たばこと養蚕の作業がかちあい、幼児のある家庭ではその世話に手が廻らず、そのため健康管理の不ゆきとゞき、また一寸の油断での大けがなどの問題をかかいています。

この時期を選び、西山部落からの強い要望で去る七月二十日より八月二十五日まで西山季節保育所が開設されました。

入所幼児数は十七人で、保母の根本キンさん（根本校長夫人）の親切な保育で楽しい毎日をおくつています。

遊具は船形シーソー、スベリ台その他積木やボーリング等すべて整つています。





シーソで遊ぶ西山部落の子供たち



ご利用に便利な 郵貯本人票

郵便局の通常貯金は、通帳とハンコがあれば、全国どこの郵便局でも払いもどせる便利な特色をもつています。反面、万一通帳とハンコをなくしたり、盗難にあつたとき、大切な貯金が引出される危険もあります。

また預け入れた郵便局以外では一ケ月に三〇万円までしか払いもどしができません。この不便をなくすために、「郵便貯金本人票」があります。郵政省で発行する「郵便貯金本人票」を持つていてどこの郵便局でも金額に制限なく払いもどしすることができます。

いわば郵便貯金を利用する方のための郵政省発行の身分證明書です。発行ご希望の方は、通帳、ハンコ、写真一枚および住所を証明するものを持つてお近くの郵便局に申し出れば、地方貯金局で発行し自宅にお届けします。

本人票は長期の出張や、セールスマン、船員その他旅行がちのかたに便利な制度ですからぜひご利用下さい。